令和2年(2020年)10月12日

部(局)長 各位

市長

令和3年度(2021年度)予算編成について(通知)

1 本市の財政課題と経営基盤強化の取組

本市の財政は、3つの課題を抱えています。

1つ目は、新型コロナウイルス感染症拡大防止や「新たな日常」の実現に向けた取組が求められる中、本市の歳入の根幹である市税収入は、次年度以降大幅な減収が見込まれることです。

2つ目は、本市が保有している多くの建物施設やインフラの老朽化が進行していることです。

3つ目は、社会保障関連経費が増加する中、これまで減少し続けてきた地方債残高が昨年度決算において増に転じるなど、財政構造が硬直化していることです。

これらの課題解決に向けて、現在、宝塚市行財政経営戦略本部において、令和3年度から5年度までの3か年で、行財政経営基盤の強化に集中的に取り組むことも含め、今後の行財政経営方針の策定を進めています。

2 予算編成の基本方針

このような財政課題を踏まえ、令和3年度予算編成においては、財政状況がさらに厳しさを増す中、新型コロナウイルス感染症に係る様々な対策を実施するとともに、大きく変化する行政需要に迅速かつ的確に対応していくため、限られる経営資源の適正配分に鋭意取り組むこととします。

このため、建物施設やインフラの老朽化対応に要する経費を別枠として確保した上で、各部局においては限られた予算枠の中で、市の裁量事業については成果を重視した優先度評価などによる選択と集中を、その他の事業については実施方法などの見直しによるコストの削減を、各部局マネジメントのもと着実に実施していただきたい。

そのうえで、コロナ禍における多くの課題にしっかりと対応し、市民の皆さんに寄り添い命と暮らしを守るとともにまちの活性化を図り、現在策定中の第6次宝塚市総合計画に掲げる「めざすまちの姿」を着実に実現していくための予算編成とします。

また、実施計画については、根拠に基づく政策立案(EBPM)を推進するなど、PDCAサイクルを基本とする行政マネジメントシステムの取組を強化し、予算編成とあわせて策定することとします。各事業の実施に当たっては、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進など、次世代行政サービスへの転換に係る課題への対応も検討していただきたい。

なお、令和3年度予算については、市長選挙を控えていることから、骨格予算として編成することとします。